

Ⅱ-66 仙台市近郊のサーファーによる海岸利用に関する一検討

東北工業大学大学院 学生員 ○千葉 透雄
東北工業大学 正員 高橋 敏彦

1. はじめに

平成 12 年に新海岸法が施行された。新海岸法の一番の改正点は、従来の防護だけの目的に「環境」及び「利用」を追加したことである。しかし、これまで利用者の実態があまり把握されていない。海を利用した身近なレジャースポーツの代表的なものの 1 つとして、サーフィンが挙げられる。本研究は、仙台市近郊の各サーフスポットのサーファーの利用人数や利用曜日、サーフスポットまでの所要時間、サーフィンを行う頻度などのサーファーによる海岸利用の観点から検討を行うこととした。

2. 調査場所及び方法

調査対象のサーフスポットは、図-1 に示した、菖蒲田（菖蒲田海岸）、仙台新港（仙台新港南防波堤南側）、荒浜河口（阿武隈川河口右岸側）と荒浜プール（阿武隈川河口右岸側約 200～400m 南でプールの裏）の 4 地点とした。いずれも、仙台市近郊ではサーファーに知られているサーフスポットである。調査方法は、毎日各サーフスポットの波の状況やサーファーの混み具合等を発表している波情報サイトの約 1 年間分のデータと、前述の 4 地点におけるサーファーへのアンケート調査、及び仙台新港でのサーファーの動向現地調査である。

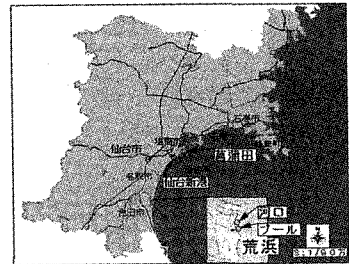


図-1 仙台市近郊の surf spot

3. 調査結果及び考察

3-1. 波情報サイトからの検討

図-2 は、2004 年 8 月 3 日～2005 年 7 月 31 日までの約 1 年間、午前 4 時～午前 7 時までの間に波情報サイトから発表される各サーフスポットの人数（利用人数）と、4 地点の合計人数を月毎に示したものである。図より、仙台新港の利用者は、4 地点合計人数の 66%（3 月）～97%（12 月）の間にあり、一年間を通して 70～80% 程度の人数を占めている。また、合計人数の最多月は 8 月で約 2700 名、最小月は 2 月で約 70 名となっている。これらの利用者人数は、気温、水温が大きく影響していると思われるが、調査時刻が早朝であることから、日の出時刻も少なからず影響しているものと考えられる。

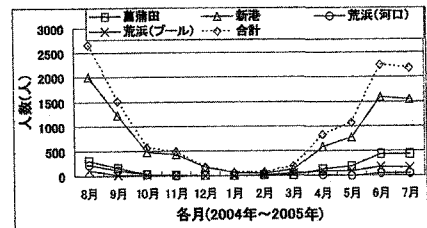


図-2 4 地点における月別利用人数

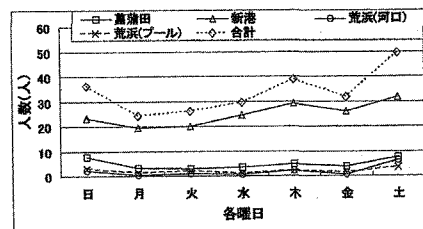


図-3 4 地点における曜日毎の利用人数

図-3 は、図-2 で用いた約一年間分のデータを曜日 1 回あたりの利用人数として、4 地点および合計人数をパラメーターとして示したものである。いずれの曜日でも早朝の時間帯にもかかわらず、4 地点合計で 25～50 名程のサーファーが利用している。特に、土曜日・木曜日・日曜日の利用人数が多くなっている。図-2 でも述べているが、仙台新港の利用人数は、他の 3 地点合計に比べても圧倒的に利用されていることが判る。また、図-4 は、図-2 で用いたデータを利用曜日毎に表したもので、仙台新港と荒浜河口の例を示している。図より、仙台新港のサーフスポットは、曜日

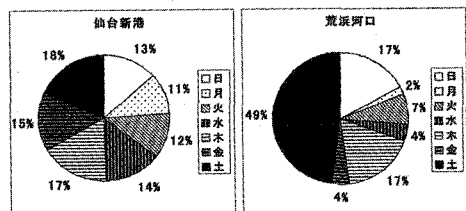


図-4 仙台新港と荒浜河口における利用曜日割合

の利用に幾分変動はあるものの、同程度の割合で、各曜日ともほぼ均等に利用されている。一方、荒浜河口のサーフスポットは、土曜日・日曜日の利用が全曜日の約 70%弱を占めている。ここでは、示していないが、菖蒲田、荒浜プールも同様の利用形態となっている。これは、仙台新港が他のサーフスポットに比べて仙台市の中心部に近く仕事前の利用であることを示唆しているものと思われる。

3-2. 現地調査からの検討

現地調査は、仙台新港において平成 16 年 8 月 30 日(月)～9 月 19 日(日)¹⁾および平成 17 年 8 月 28 日(日)～9 月 3 日(土)の間の日曜日から土曜日までを含んだ各 7 日間で、午前 5 時から午後 5 時までの毎整数時前後の計 20 分間である。調査項目は、波浪条件、気象条件等、多項目について調査を行っているが、ここではサーファーの人数に着目して記述する。サーファーの人数は調査時間内に海に入っている人と、ボードを持って砂浜を歩いている人を対象とした。

図-5 は、縦軸に人数、横軸に曜日をとり、現地調査期間中の曜日別サーファーの人数を示したものである。図中の H16 年の金曜日は、台風の影響により午前中のみでの計測である。図より、H16、17 年とも各曜日のサーファーの人数は、金曜日を除けば同傾向でほぼ同人数の値を示している。特に、土曜日・日曜日のサーファーの人数が多くなっており、月曜日・火曜日の約 2 倍程度の利用人数となっている。図-3、5 より、早朝の利用曜日の中でサーファーの人数が多い土曜日・日曜日は一日を通して利用人数が多い事が分かる。一方、早朝の利用曜日の中で比較的多い人数を示している木曜日は、一日を通しては、それ程多くの人数が利用しているわけではない。

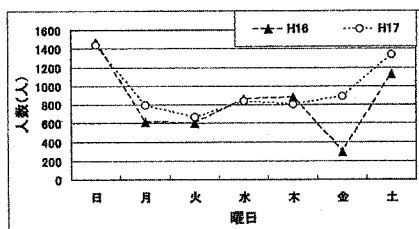


図-5 現地調査における利用曜日人口

3-3. アンケート調査からの検討

サーファーに対するアンケート調査を、前述の 4 地点において行った。仙台新港では、平成 17 年 8 月 6 日～24 日までの 7 日間、他の 3 地点では、8 月 20 日～24 日までの 3 日間である。回収アンケート用紙は、仙台新港 291 人、菖蒲田 43 人、荒浜プールと河口の 43 人の合計 377 人分である。アンケートの調査項目は、選択式と記述式を用いてサーフィン歴や職業、海岸の利用頻度、海岸に対する意識や要望等である。ここでは、サーファーによる海岸の利用に着目し、サーフィンを行う頻度やサーフスポットまでの所要時間について述べる。図-6 は、仙台新港を利用しているサーファーの仙台新港までの所要時間と、一週間の利用回数をクロス集計したものである。図より、利用回数としては、一週間に 1～2 回利用する人が最も多く、サーフスポットまでの所要時間では、15～30 分が最も多いことが分かる。次に、サーフスポットまでの所要時間が 0～15 分で週 1～2 回の人と、所要時間が 15～30 分で週 3～4 回の人が多い。また、少人数ではあるが、毎日サーフィンを行う人もいることが分かった。

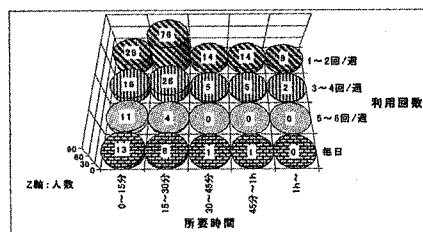


図-6 所要時間と利用回数

4. おわりに

サーファーによる海岸利用の観点から検討を行ったところ、波情報サイトより仙台市近郊では、仙台新港が約 7～8 割のサーファーに利用されており、多い月は 2700 名、少ない月で 70 名と多くのサーファーが仙台新港を利用している。そこで仙台新港に着目してみると、他のサーフスポットに比べて、利用者の利用環境が良いためか、各曜日ともほぼ均等に利用されている。利用回数としては、一週間に 1～2 回利用する人が最も多く、サーフスポットまでの所要時間では、15～30 分が最も多いことが分かった。

<参考文献> 1) 千葉・高橋・新井・渡部: 仙台市近郊の海岸におけるサーファーの動向に関する実態調査, 海洋開発論文集, 第 21 巻, pp. 181～186, 2005.